

## 【2】支出意欲をとりまくダウンサイドリスク

## ① 支出意欲は弱含み

今後の消費はどうなるのかを、生活者の支出意欲に着目し検討してみる。

『JMR消費動向調査』の結果から、個人支出意向の時系列推移をみると、2005年9月調査以降、「現状維持したい」の比率が一貫して「増やしたい計」「減らしたい計」の比率を上回り多数派を保つとともに、2007年8月調査以降は、「現状維持したい」の比率が上昇を続けている。「増やしたい計」の比率は2007年8月調査以降一貫して減少している一方、「減らしたい計」の比率は2010年8月調査以降緩やかに上昇している。個人支出意向は、現状維持が大勢ではあるが、減少意向が相対的にやや優勢な方向へ変化しているといえよう。

個人支出意向の違いを属性別にみると、いずれの層でも減少意向の比率が増加意向の比率を上回っている。世代別ではゆとり世代、団塊ジュニア、新人類で減少意向が若干高い。ライフステージ別では、学生と独身社会人といった未婚のステージで、減少意向が顕著に高い。職業別ではフルタイム勤務で減少意向が顕著に高い。派遣・契約・アルバイト等でも減少意向は若干高めだが、非正規雇用層よりも正規雇用層で減少意向が目立っている点は注目される。

図表1-7. 個人支出意向の時系列推移とその属性差

